



OSJBホールディングス株式会社

証券コード：5912

第3期 株主通信

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

人と技術を活かし、
社会基盤整備に貢献します。



トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび代表取締役社長に就任いたしました、大野達也でございます。

ここに、当社第3期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の事業の概況等についてご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大野 達也

当期の事業概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国経済の緩やかな回復を背景に輸出や生産が持ち直しております。設備投資は、企業収益が高水準で推移しているなかで、緩やかな増加基調にあります。雇用情勢は改善しており、所得環境も着実な改善を続けていることを背景に、個人消費は総じて持ち直しの動きとなっております。海外経済の不確実性があるなか、景気は、

一部に改善の遅れがみられるものの、基調として緩やかな回復を続けております。

公共投資につきましては、国の一般会計予算において補正予算措置が講じられ、補正後の公共事業関係費は前年度を上回っており、公共工事請負金額では前年比増加が続くなど、底堅い動きとなっております。

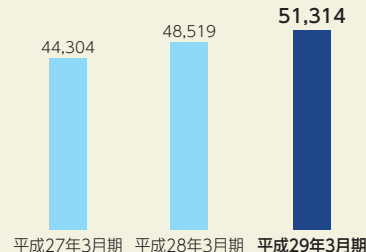
このような状況におきまして、当社グループ全体で

経営理念

人と技術を活かし、
社会基盤整備に貢献します。

売上高（単位：百万円）

連結決算ハイライト



受注活動に取り組んだ結果、当期の受注高は、641億3千3百万円(前年同期比41.7%増)となりました。ニューマチックケーソン工事、橋梁の補修補強工事、一般土木工事など建設事業での順調な受注獲得が主な要因であります。

当期の主要な受注は、以下のとおりであります。

建設事業

- ニューマチックケーソン工事

清水・竹中土木・足立JV
[広川ポンプ場(管)]

- コンクリートの新設橋梁工事

国土交通省東北地方整備局
[東北中央自動車道 今田高架橋敷内地区上部工工事]

- 橋梁の補修補強工事

中日本高速道路株式会社
[中央自動車道(特定更新等)辰野TN~伊北IC間改良工事(平成28年度)]

- 一般土木工事

中日本高速道路株式会社
[新東名高速道路 柳島高架橋工事]

鋼構造物事業

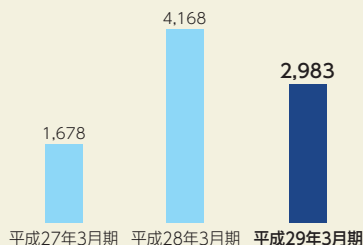
- 鋼構造の新設橋梁工事

福岡北九州高速道路公社
[第601工区(香椎浜)高架橋上下部工(鋼橋)新設工事(その1)]

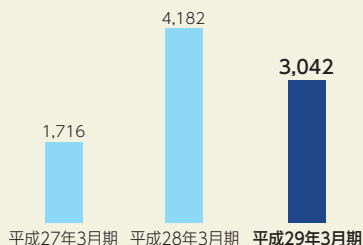
売上につきましては、大きな工程の遅れもなく進捗が順調に推移したことにより、売上高は513億1千4百万円(前年同期比5.8%増)となりました。また、受注残高につきましては、上記の受注および売上の状況により、529億4千4百万円(前年同期比31.9%増)となりました。

損益面では、売上総利益は70億3千4百万円(前年同期比9.5%減)、営業利益は29億8千3百万円(前年同期比28.4%減)、経常利益は30億4千2百万円(前年同期比27.2%減)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は26億6千3百万円(前年同期比20.5%減)となりました。

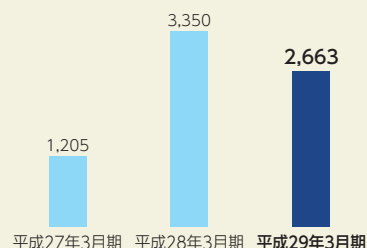
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(単位:百万円)



トップメッセージ

セグメント別概況

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

建設事業

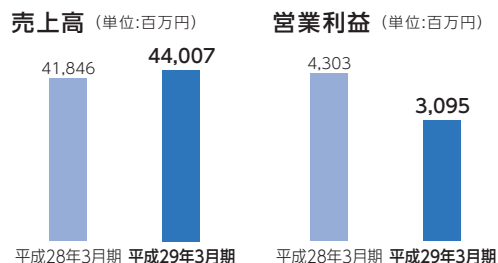


オビラシケ川橋

売上高 **44,007**百万円

当セグメントの売上高は440億7百万円(前年同期比5.2%増)、セグメント利益(営業利益)は30億9千5百万円(前年同期比28.1%減)となりました。

営業利益 **3,095**百万円



鋼構造物事業

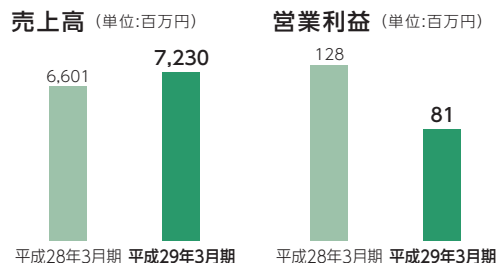


竜の口橋りょう

売上高 **7,230**百万円

当セグメントの売上高は72億3千万円(前年同期比9.5%増)、セグメント利益(営業利益)は8千1百万円(前年同期比36.3%減)となりました。

営業利益 **81**百万円



その他

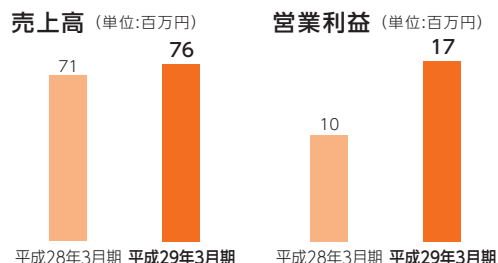


西脇太陽光発電所

売上高 **76**百万円

太陽光発電による売電事業により、売上高は7千6百万円(前年同期比6.3%増)、セグメント利益(営業利益)は1千7百万円(前年同期比59.8%増)となりました。

営業利益 **17**百万円



次期の見通し

今後の公共投資市場は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連する事業や、中央新幹線や整備新幹線といったインフラ整備プロジェクトに加え、地震や津波、ゲリラ豪雨対策などの防災・減災事業、および全国的高速道路の大規模更新事業の本格展開が見込まれ、当面の建設需要は底堅く推移する見通しですが、生産性の向上、担い手の確保、ガバナンスの強化といった課題も山積しております。

このような経営環境のもと、当社グループは受注量確保と事業採算性向上のバランスを重要視し、高い技術力に裏付けられた競争優位性を持つプレストレストコンクリート工法やニューマチックケーソン工法、構造物の補修補強に係る特殊工法などに経営資源を有効

に活用し、人材や事業への戦略的投資を通じ経営基盤の強化を図ってまいります。

当該状況を勘案し、次期の通期連結業績予想は、売上高500億円、営業利益30億円、経常利益30億円、親会社株主に帰属する当期純利益21億円としております。

なお、業績予想につきましては、現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	平成29年3月期(実績)	前年同期比	平成30年3月期(予想)	前年同期比
売上高	51,314百万円	5.8% 増 ▲	50,000百万円	2.6% 減 ▼
営業利益	2,983百万円	28.4% 減 ▼	3,000百万円	0.6% 増 ▲
経常利益	3,042百万円	27.2% 減 ▼	3,000百万円	1.4% 減 ▼
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,663百万円	20.5% 減 ▼	2,100百万円	21.1% 減 ▼
1株当たり当期純利益	22.21円	—	17.52円	—
1株当たり配当金	6.00円	—	6.00円	—

特集:新中期経営計画

当社グループは、2017年度(2018年3月期)を初年度とし、2019年度(2020年3月期)までの3か年を対象とした「中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築き上げる 安定と成長～」を策定し、スタートさせました。ここに前中期経営計画の振り返りと新中期経営計画の概要についてご説明いたします。

前中期経営計画の振り返り

前中期経営計画(2014年度～2016年度)においては、2つの基本方針のもと、各種施策を実施した結果、最終年度の目標であった売上高440億円に対して513億円、同じく経常利益13億円に対して30億円と計画値を大幅に上回ることができました。

(ご参考)前中期経営計画の基本方針

- ① 「橋梁の総合建設会社グループ」として、上部工(プレストレストコンクリート橋・鋼橋)/下部工/基礎工/維持補修工の幅広い分野を網羅する強みを持った橋梁事業の強化とともに、ニューマチックケーソン事業、建築事業での安定収益確保を図る
- ② オリエンタル白石・日本橋梁間の事業シナジーの更なる推進、コスト削減策の実行により、収益性や財務体質の強化を図る

新中期経営計画の策定にあたって

市場動向

今後の公共投資市場は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連する事業や、中央新幹線や整備新幹線といったインフラ整備プロジェクトに加え、地震や津波、ゲリラ豪雨対策などの防災・減災事業、および全国的高速道路の大規模更新事業の本格展開が見込まれ、当面の建設需要は底堅く推移する見通し

建設産業の課題

- **生産性の向上**：ICT技術やプレキャスト製品による省人化、省力化、施工能力向上による工期・工費の圧縮
- **担い手の確保**：人材の確保・育成、技術の伝承、就業環境の改善
- **ガバナンス強化**：工事の安全・施工品質の管理、コンプライアンス意識やリスクマネジメントの徹底

中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築き上げる 安定と成長～

基本方針

- 独自技術の強化と適用範囲の拡大を通じ、橋梁の上下部工・ニューマチックケーソン・プレレストレストコンクリート建築・維持補修工を主軸として、長期安定収益の確保を図る。
- 事業の成長・拡大に向けた新たな事業・投資戦略等に対する適切なリスクマネジメントや内部統制の強化等を実施し、攻めと守りのバランスのとれたガバナンスを通じ持続的企業価値の向上を図る。

経営指標目標

2020/3期

売上高

550億円

経常利益

35億円

	2017/3期 実績	2018/3期 目標	2020/3期 目標
売上高	513億円	500億円	550億円
経常利益	30億円	30億円	35億円
経常利益率	5.9%	6.0%	6.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	26億円	21億円	25億円
ROE	11.2%	8%以上	10%程度
配当性向	27.3%	25%以上	30%程度
総還元性向	39.0%	30%以上	40%程度



事業別戦略

既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

- **コンクリート製新設橋梁**
 - ➔ 総合評価力の強化、シェアの確保
 - 省力化工法高耐久技術の開発
- **ニューマチックケーソン**
 - ➔ 大深度・大規模構造物対応
 - 安全性向上、掘削技術の開発
 - 無人化・省力化技術の開発
- **補修・補強**
 - ➔ 高速道路床版取替、桁架替対応
 - ➔ 橋脚・基礎の補修補強対応
 - 実績積上げ、急速施工技術開発
- **PC(プレストレストコンクリート)建築**
 - ➔ 提案力、設計力の強化
 - BIMの活用
 - プレキャスト工法の競争力向上

大型プロジェクト工事の積極受注

- **建設事業**
 - ➔ 北陸新幹線延伸
 - 橋梁、橋脚基礎、軌道スラブ等
 - ➔ 中央新幹線
 - ニューマチックケーソン立坑工事等
 - 橋梁上下部工事、ガイドウェイ
 - ➔ 高速道路大規模更新
 - 床版取替・桁架替工事、橋梁補修工事等
 - ➔ 調整池・ポンプ場更新
 - ニューマチックケーソン工法によるポンプ場等築造
 - ➔ 東京五輪関連施設建設
 - 観覧スタンド段床版等のプレキャスト工事

鋼構造物事業の再編

- **新設鋼製橋梁建設事業**
 - ➔ 工場を集約しコストを圧縮
 - 日立造船株式会社との共同工場による生産体制構築への取り組み
- **インフラ保全事業**
 - ➔ 補修・補強部門を強化
 - 高速道路床版取替対応
 - 疲労損傷補修補強対応
 - 耐震補強対応

エンジニアリングの推進
(製造業から建設業へのシフト)

新規・新領域事業への進出

新たな事業分野を開拓

- **建設事業**
 - ➔ 港湾関連事業への進出
 - ニューマチックケーソン岸壁適用、高耐久PC栈橋等
 - ➔ 海外事業への進出
 - モノレール軌道桁、軌道スラブの製作
 - ニューマチックケーソンの施工
 - ➔ アライアンス等の検討
 - M&A、異業種業務提携等
- **鋼構造物事業**
 - ➔ 鋼製橋梁周辺事業への進出
 - IH式塗膜剥離装置による保全事業の展開
 - 恒久足場事業の展開
 - 高耐食鋼検査路事業の展開

研究開発の強化と戦略的投資

新たな技術・素材・工法を開発

- ➔ 独自技術の開発
 - 橋梁等の新たな更新、補修・補強技術開発および新素材や構造物への適用工法の開発
- ➔ 異業種企業との連携
 - 事業分野を超えた多様な企業との連携・協働を通じた、技術や工法の融合による新商品の開発

戦略的投資

- ➔ 安定と成長の布石
 - 生産性向上に資する設備・研究開発投資
 - コンクリート工場の設備更新
 - 戦略的な出資や資本提携の模索

経営基盤進化

経営課題への積極的な取り組み

人材マネジメント・働き方改革

- 優秀な人材の確保と育成(協力会社含む)
- 女性・外国人・高齢者等の活躍を支援するダイバーシティ化の推進
- 休日の確保、長時間労働等への取り組み

業務の効率化

- グループ内システム統一化により、子会社の業務プロセスの標準化・効率化を図る
- 数年後、管理業務を持株会社へ集約

協力会社との協働

- 作業員用宿舎の提供
- 協力会を通じ、採用・社員研修・資格取得に対する支援

健全な財務基盤の維持

- 金融機関のセーフティネットを確保
- 確実な代金回収

コーポレートガバナンスの強化

- コーポレートガバナンスコードへの対応推進
- 役職員に対するコンプライアンス教育の充実
- 役職員に対する品質・安全管理、リスクマネジメント、BCPの充実

株主還元方針

安定した利益配当を継続実施

配当金

- 財務の健全性および将来の戦略投資に資する内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで、安定した利益配当を継続して実施

自社株買い

- 一定水準の利益配当を確保したうえで配当性向、株価動向等を勘案し、機動的に自社株買いを実施

総還元性向

- 配当金と自社株買いを合わせた総還元性向は30%以上を目標



独自の工法と特化技術で社会基盤を創造する



ホームページのご案内
<http://www.orsc.co.jp/>

会社概要

商 号	オリエンタル白石株式会社
創 業 日	昭和27年(1952年)10月21日
資 本 金	5億円
従 業 員 数	669名
事 業 内 容	プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売、ニューマチックケーソンの建設工事、補修補強の建設工事、耐震補強建築工事の設計・施工、建設資材の販売、太陽光による発電事業およびその管理・運営ならびに電気の供給、販売
所 在 地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代 表 者	代表取締役社長 大野 達也

現場紹介 蘭牟田(いむた)瀬戸架橋第2橋(1工区)工事

本工事は、鹿児島県西方にある中甑島と下甑島をひとつにつなぐ工事（上甑島と中甑島は当社施工の甑大明神橋で連結済）、完成すると甑島全体がひとつにつながり、島民にとっては悲願の橋であります。

蘭牟田瀬戸架橋は、全長1,533m、PC連続箱桁橋4橋から構成されており、当社はその中の第2橋P4橋脚張出し部（191m）の施工を行っております。

当社の施工場所は、船の航路部に当たり棧橋設置ができないため、資材の運搬からコンクリートの打設まで、全て船舶を使用しています。最初に110t吊起重機船を使用し、タワークレーンの組立を行いました。海上で起重機船を使用しての精密な組立作業は困難なため、海上での組立作業を最小限にする工夫を行いました。コンクリートの打設には、コンクリートミキサー船を使用します。ミキサー船とは、コンクリートプラントとしての設備が全て配備された船舶で、船内でコンクリートの練り混ぜを行い、ポンプで圧送を行います。

このあたりは、蘭牟田瀬戸海峡と呼ばれており、東シナ海からの潮の流れが速く、また南北に風をさえぎる物が無いことから、台風時や冬季風浪の影響を大きく受ける場所であるため、細心の注意を払い、工事を進めています。

契約工事名称	道路整備（交付金）工事（蘭牟田瀬戸架橋第2橋26-1工区）
発注者名	鹿児島県北薩地域振興局建設部甑島支所
工事場所	鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田地内
工期	平成26年10月6日～平成29年9月19日
工事概要	4径間連続箱桁橋 P4張出部 第2橋 橋長550mの内191m 有効幅員6.5m



蘭牟田瀬戸架橋全景



P4橋脚全景



コンクリート打設状況

常に新しい技術と品質の向上に貢献



会社概要

商号	日本橋梁株式会社
創業	大正8年(1919年)7月7日
資本金	4,000万円
従業員数	114名
事業内容	橋梁等の鋼構造物の設計・製作・架設工事、補修補強の建設工事
所在地	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目9番1号
代表者	代表取締役社長 坂下清信

ホームページのご案内

<http://www.nihon-kyoryo.co.jp/>

現場紹介 龍神橋

本工事は、熊本市の中心部を流れる一級河川「白川」にかかる龍神橋の架け替え工事です。

施工箇所は、熊本大学のすぐ裏に位置しています。

旧橋は道幅が狭く片側交互通行で渋滞も激しいため、地域より一刻も早い架け替えが望まれていました。

本工事の特徴は、コンクリート橋の施工においてよく使用される架設桁架設工法(ガーダーと称する架設桁で、製品の桁を吊って送り出す方法)を採用している点です。これにより、従来の仮栈橋を使用した工法よりも工程を短縮することが可能となりました。

さらに杭打込み時の振動等も発生しないため、環境負荷を低減させる効果もあります。



航空撮影状況

契約工事名称	市道 渡鹿4丁目黒髪5丁目第1号線(龍神橋)上部工工事
発注者名	熊本市
工事場所	熊本市中央区渡鹿5丁目外区内
工期	平成28年3月25日～平成29年10月3日
工事概要	鋼2径間連続非合成箱桁
	橋長：106.250m
	支間長：52.5+52.75m
	幅員：16.8m
	鋼重：524トン



架設状況

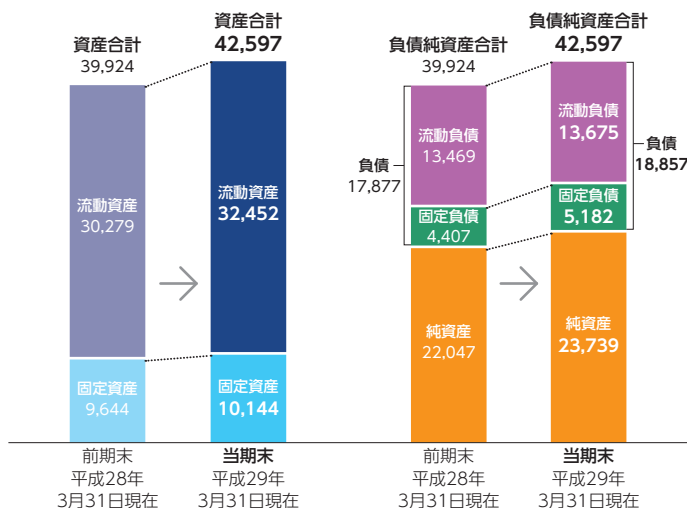


架設状況

連結財務諸表

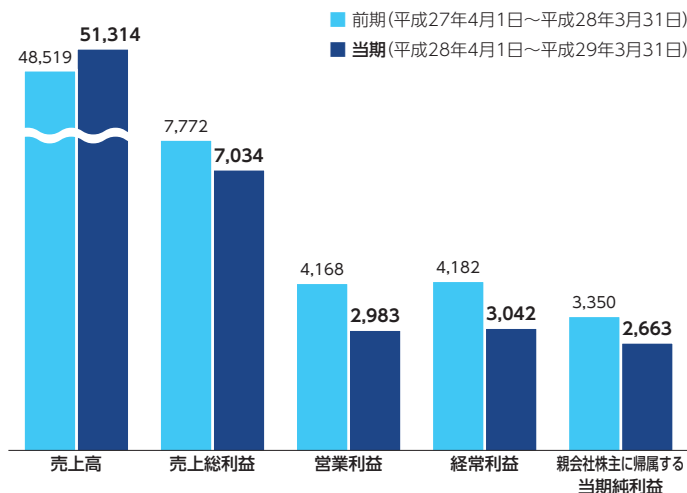
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



POINT 1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ7.2%増加し324億5千2百万円となりました。これは主に立替金が13億3千8百万円減少しましたが、受取手形・完成工事未収入金が20億9千4百万円増加したことなどによるものです。

POINT 2 固定資産

固定資産は、前期末に比べ5.2%増加し101億4千4百万円となりました。これは主に用地購入により土地が4億5千8百万円増加したこと、繰延税金資産が5億1千2百万円増加したことなどによるものです。

POINT 3 流動負債

流動負債は、前期末に比べ1.5%増加し136億7千5百万円となりました。これは主に預り金が7億1千6百万円減少しましたが、未払金が6億1百万円増加したことなどによるものです。

POINT 4 固定負債

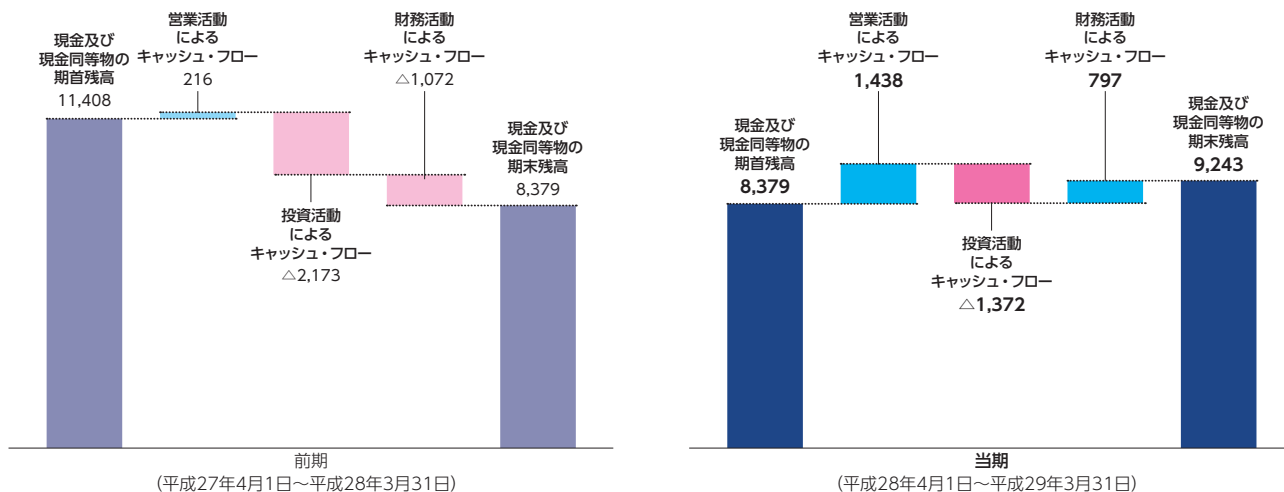
固定負債は、前期末に比べ17.6%増加し51億8千2百万円となりました。これは主に長期借入金が16億4千3百万円増加したことなどによるものです。

POINT 5 純資産

純資産合計は、前期末に比べ7.7%増加し237億3千9百万円となり、自己資本比率は55.7%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



POINT 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は14億3千8百万円(前期比564.0%増)となりました。これは主に法人税等の支払額7億2千8百万円、売上債権の増額19億3千万円がありました。税金等調整前当期純利益24億2千6百万円、立替金の減額13億3千8百万円によるものです。

POINT 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は13億7千2百万円(前期比36.9%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出11億9千2百万円によるものです。

POINT 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

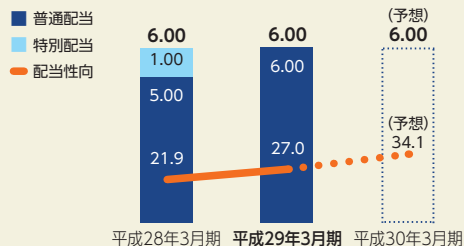
財務活動による資金の増加は7億9千7百万円(前期は10億7千2百万円の減少)となりました。これは主に配当金の支払額7億2千6百万円、自己株式の取得による支出3億4百万円がありました。長期借入れによる収入20億円によるものです。

利益配分に関する基本方針および当期・次期の配当

当社は、株主への安定した利益還元を経営における最重要課題のひとつと考え、安定した利益配当を継続して実施することを基本方針としております。当期の配当につきましては、業績等を総合的に勘案した結果、普通株式1株当たり6円とさせていただきます。

次期につきましても、基本方針に従い年間普通配当金については当期と同額の6円を予定し、可能な限り株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

1株当たり配当金(単位:円)／配当性向(単位:%)



株主アンケート結果

2016年12月実施の「中間株主通信」に同封いたしました「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

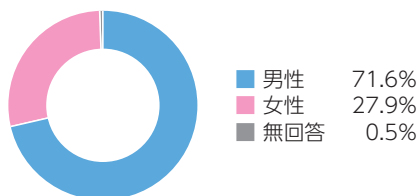
なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきます。

以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。

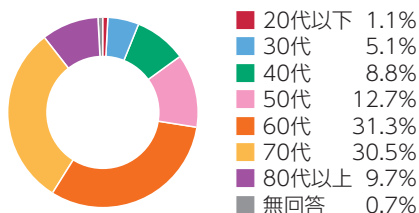
「株主アンケート」概要

アンケート方法	「中間株主通信」にアンケートはがきを同封して実施
アンケート対象者	2016年9月30日時点株主名簿記載の株主様
アンケート対象人数	28,609名
アンケートご回答数	6,827名
アンケートご回答率	23.9%

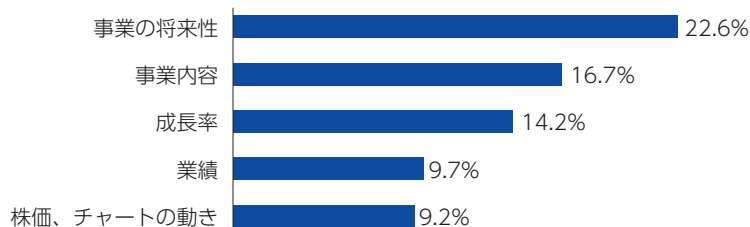
ご回答いただきました株主様の性別



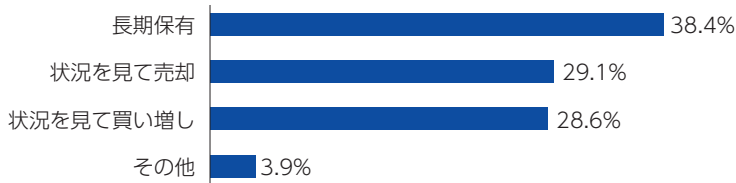
ご回答いただきました株主様の年代



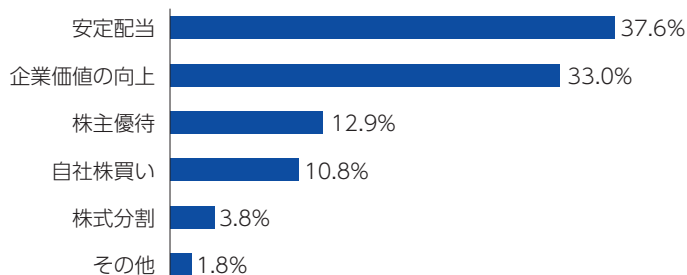
Q 当社株式を購入された際、重視されたポイントをお選びください。(複数回答)(上位5位)



Q 今後の当社株式に関して、あなたのお考えにちかいものをお選びください。



Q 今後、株主還元として、当社に最も期待することは何ですか?(複数回答)



企業情報 (平成29年3月31日現在)

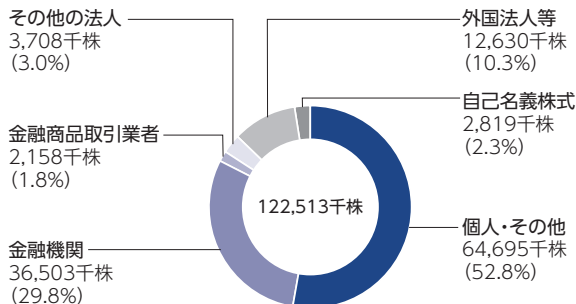
会社概要

商号	OSJBホールディングス株式会社
	 OSJBホールディングス株式会社
創業	平成26年(2014年)4月1日
資本金	10億円
従業員数	(連結)848名
事業内容	グループ企業の経営計画ならびに管理
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
URL	http://www.osjb.co.jp/
上場証券取引所	東証 市場第一部
主要取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社りそな銀行

株式の状況

発行可能株式総数	138,809,400 株
発行済株式の総数	122,513,391 株
株主数	25,603 名

所有者別状況



取締役および監査役 (平成29年6月28日現在)


代表取締役社長	大野 達也
取締役	高井 繁
取締役	坂下 清信
取締役	橋本 幸彦
社外取締役	住江 清
社外取締役	大即 信明
社外取締役	加藤 英明
常勤監査役	久米 清忠
社外監査役	平井 利明
社外監査役	桃崎 有治
社外監査役	小林 弘幸

大株主

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,765千株	17.34%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,613千株	4.68%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,253千株	1.88%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,589千株	1.32%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,533千株	1.28%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,260千株	1.05%
CBLDN RE FUND 107-CLIENT AC	968千株	0.80%
JP MORGAN CHASE BANK 385151	951千株	0.79%
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	930千株	0.77%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	917千株	0.76%

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数を分母に用いて算出しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 その他必要があるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先)	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  0120-232-711

単元未満株式の買取制度について

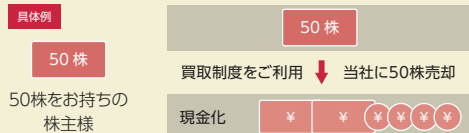
当社では証券市場で株式を売買できる取引単位(単元株式)を100株とさせていただいており、単元未満株式(1~99株の株式)については、証券市場においては売買することができません。

そのため、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(単元未満株式の買取請求)がございます。

単元未満株式の買取請求に関するお手続きの詳細については、お取引先の証券会社等(口座管理機関)にお問い合わせのうえ、お手続きください。また、特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求をされる場合は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせのうえ、お手続きください。

単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。



表紙写真について

鳥羽水環境保全センター
汚泥消化タンク工事



OSJBホールディングス株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号(NBF 豊洲チャンネルフロント)
TEL.03-6220-0601 FAX.03-6220-0602 URL.<http://www.osjb.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。